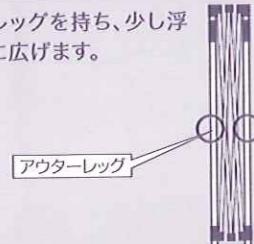


テントの組立て方法

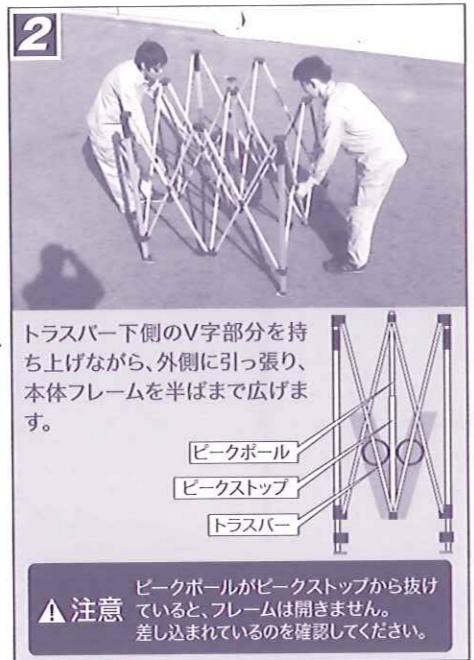
※写真は「KA/6W」を例に説明しています。テントの大きさや形状に違いはありますが、他の規格品も組立て手順は同じです。なお各部の名称は裏面「各部の名称」を参照してください。



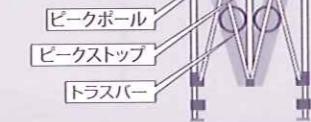
四隅のアウターレッグを持ち、少し浮かせながら左右に広げます。



▲注意 フレームが引っ掛かっている場合がございますので、無理に広げないでください。



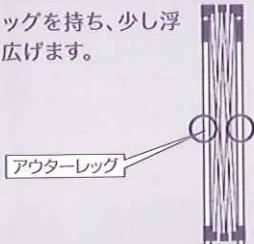
トラスバー下側のV字部分を持ち上げながら、外側に引っ張り、本体フレームを半ばまで広げます。



▲注意 ピークボールがピークストップから抜けていると、フレームは開きません。差し込まれているのを確認してください。



天幕を袋から出し、本体フレームにかぶせます。



天幕と四隅のアウターレッグのマジックテープを合わせます。



トラスバー下側のV字部分を持ち上げながら、さらに外側へ引っ張り、本体フレームを最大まで広げます。



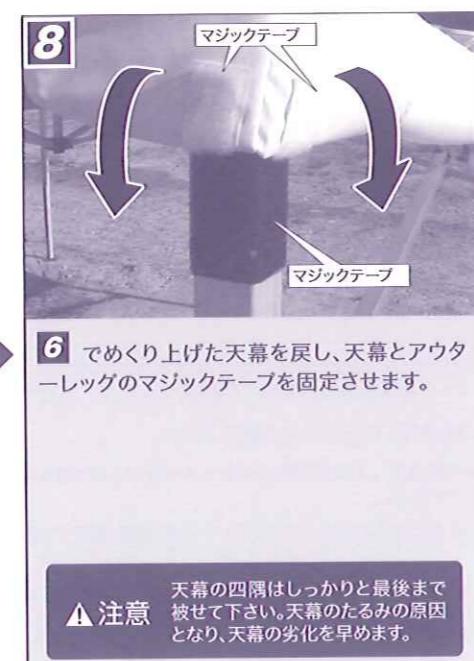
四隅の天幕を少しずつ上げます。



アウターレッグにあるすべてのスライダー(J2P及びJ3P)を、「パチン」と音がするまで押し上げます。

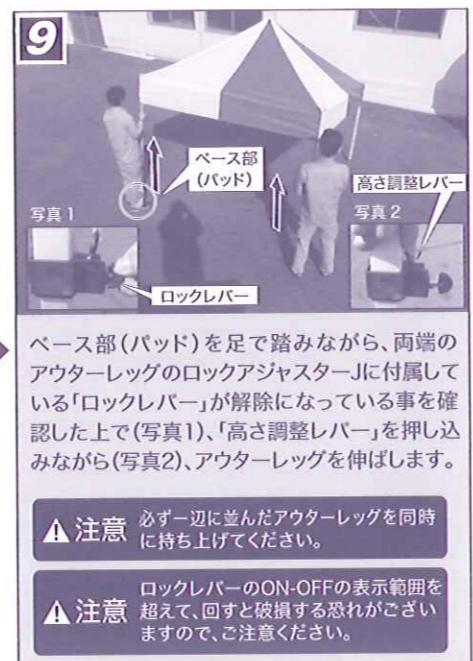
※ロックがかかりにくい場合は天幕の角を一度外してから押し上げてください。

▲注意 手や指をはさまないようご注意ください。



でめくり上げた天幕を戻し、天幕とアウターレッグのマジックテープを固定させます。

▲注意 天幕の四隅はしっかりと最後まで被せて下さい。天幕のたるみの原因となり、天幕の劣化を早めます。



ベース部(パッド)を足で踏みながら、両端のアウターレッグのロックアジャスターJに付属している「ロックレバー」が解除になっている事を確認した上で(写真1)、「高さ調整レバー」を押し込みながら(写真2)、アウターレッグを伸ばします。

▲注意 必ず一辺に並んだアウターレッグを同時に持ち上げてください。

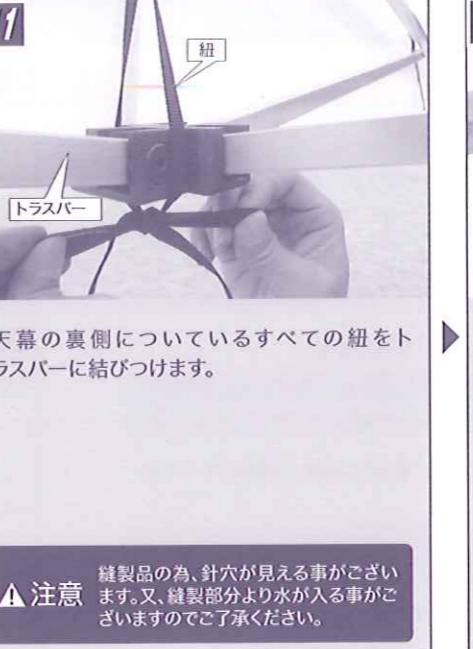
▲注意 ロックレバーのON-OFFの表示範囲を超えて、回すと破損する恐れがございますので、ご注意ください。



反対側のアウターレッグも同様に伸ばします。

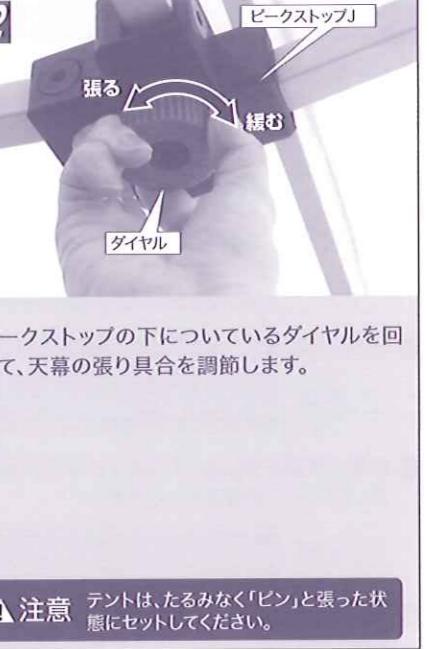
なお、テントの高さは、ロックアジャスターJの高さ調整レバーを押しながらアウターレッグを持ち上げ、伸ばすことで、3~5段階のお好みの高さに調整することができます。

▲注意 脚はすべて同じ長さ(水平)に揃えてください。



天幕の裏側についているすべての紐をトラスバーに結びつけます。

▲注意 縫製品の為、針穴が見える事がございます。又、縫製部分より水が入る事がございますのでご了承ください。



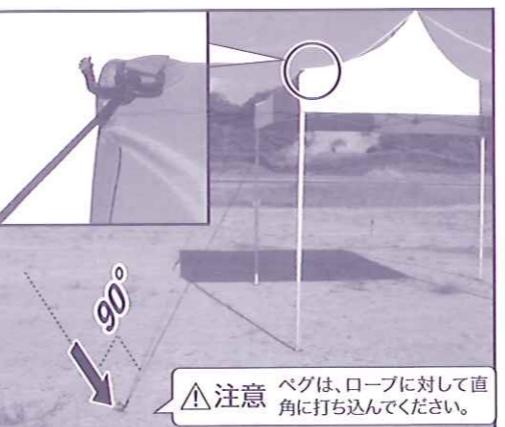
ピークストップの下についているダイヤルを回して、天幕の張り具合を調節します。

▲注意 テントは、たるみなく「ピン」と張った状態にセットしてください。

ここまで完成した時点で、次の事項を確認し、異常のある場合はテントのご使用を中止してください。
また対応につきましては、お求めになった販売店へお問い合わせください。

- 天幕が破れている、フレームが曲がっている等の異常のある箇所はないですか? ※なお、ボルトが緩んでいる場合は、付属の六角レンチで締め直してください。
- 天幕と本体フレームの、マジックテープの貼り付き具合は弱くないですか?
- 天幕はたるみなく「ピン」と張っていますか? 雨水が溜まりそうではありませんか?
- 本体フレームの各ストッパーが、きちんと固定されていますか?

テントを固定する

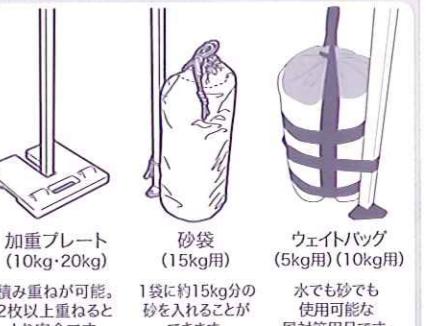


天幕の四隅にあるプラスチックの留め具にしっかりとロープを結び、ベグをテントの対角線上にしっかりと根元まで打ち込みます。

※四隅以外のアウターレッグには、ベース部の穴へ直接ベグを打ちます。

● 固い地面や風対策に…

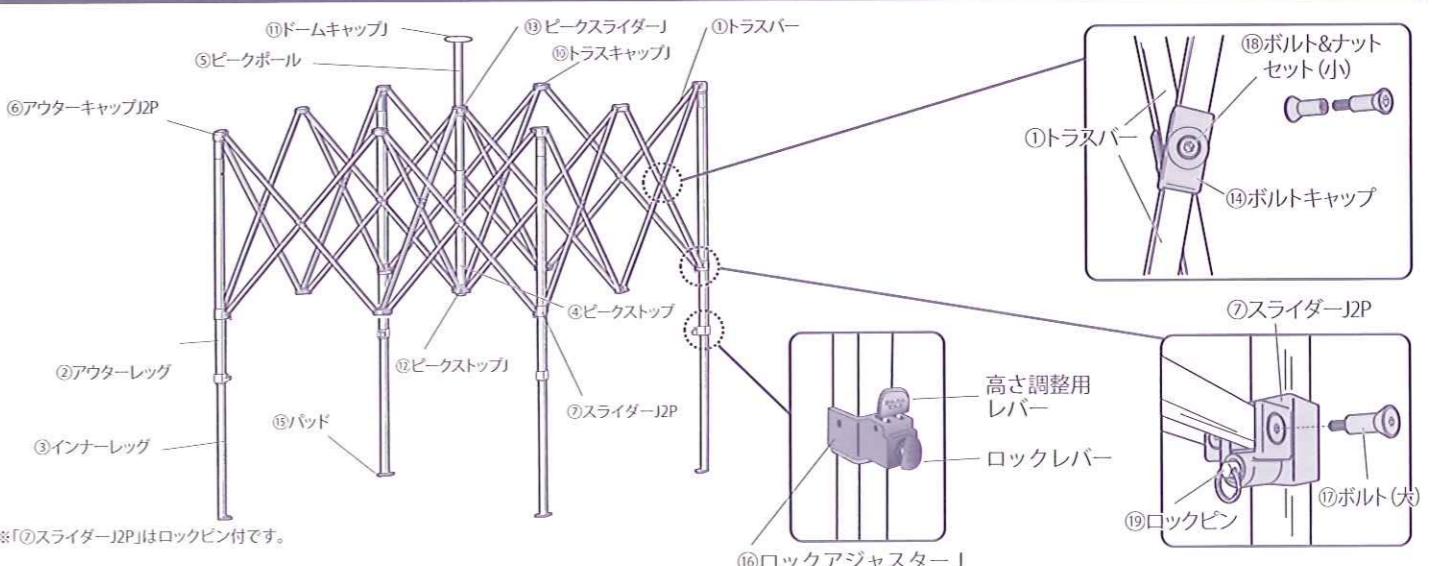
地面が固くベグを使用できない場合、またベグとの併用で風対策用に、「加重プレート」「砂袋」「ウオーターウエイト」等の別売オプション品をご利用ください。



ロープを張れるだけのスペースがない場合は、ベース部(パッド)の穴に、直接ベグをしっかりと打ち込みます。

▲警告 強風などに煽られ、固定したベグやロープ/ウェイトが外れてしまい事故が起る恐れがあります。風対策用のウェイトを併用した場合でもけで過信はせず、悪天候時や天候の悪化が予想される場合、また突風が起こる可能性のある時は、テントの使用を中止してください。

各部の名称



※⑦スライダーJ2Pはロックピン付です。